

設楽ダム連続公開講座 第1回とよがわ流域県民セミナー 知事挨拶（主催者挨拶）

皆様こんにちは。愛知県知事の大村秀章でございます。

本日は、格別暑い中、設楽ダム連続公開講座「第1回とよがわ流域県民セミナー」を開催致しましたところ、このように多くの皆様方にご参加いただき、心から感謝申し上げます。

また、開催に当たりまして、運営チーム委員の皆様方には、公開して会議を開催していただきまして、講座のテーマや運営の方法などについて熱心にご議論をいただきました。また、参加者の方々からもご意見をお聞きし、第1回のセミナーを開催することができました。運営チーム委員の皆様方には、心から感謝申し上げます。

また、何と言っても、本日の会場をご提供いただきました愛知大学様に対しまして、心から厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、この東三河地域は、豊川を中心として、流域という形で古来から発展してきたわけでございます。そういう中で、水に対する関心は非常に大きいと思います。今年は5月の降水量が、矢作川、木曾川もそうでしたが、少なかったもので、6月の頭まではどうなることやらと思っておりましたが、その後、6月半ばからの梅雨もあって、おかげさまで渇水ということではなくて済んでいるところでございます。

一方で、九州北部では大変な大雨による被害ということもありました。水とどうつき合っていくのか、どういうふうしていくのか、流水管理という観点からどういうふうにやっていくのか大変大事なことだと思っております。

そういう中で、設楽ダムにおきましては、国におきまして再検証のための検討が行われておりますが、それはそれとしまして、本県といたしましては、本日開催のセミナーなどを通じまして、県民の皆様には様々な情報をわかりやすくお示しをし、設楽ダムにつきまして広く関心をもっていただき、そのあり方も含め、理解をいただければと思います。

そういう中で、地元から設楽ダムについてのご要望や環境をしっかりと守ってほしいという声など様々なご意見をいただいておりますが、今回はこうしたセミナーの開催という形で、県民の皆様から広くご意見をお伺いできればと思っております。

本日のテーマは「とよがわ流域って何？」ということでございます。愛知大学の藤田名誉教授、東京大学の蔵治准教授から、豊川流域に根ざし、地域全体を視野に据えた、このセミナーの幕開けにふさわしいテーマでお話をいただけるとのことです。

このセミナーが、多くの県民の皆様には設楽ダムにつきまして、大いに関心を持っていただくきっかけになれば幸いです。

冒頭申し上げましたが、何分、一年で一番暑い季節でございますので、体調管理にお気をつけいただき、お過ごしいただきたいと思います。今日からセミナーがスタートしまして、実り多きものになることを願ひまして、私からのご挨拶とさせていただきます。